



ラジオNIKKEI

『キラメキの発想』 資料

2023年9月25日放送分

放送では主に日経平均株価を大きく動かしそうな内部・外部要因について、日経225OPトレーダーの視点から、さまざまなファンダメンタル指標やテクニカル指標などを用いて分析していきます。なお、主宰しているオプション倶楽部の詳細については倶楽部サイト「optionclub.net」をご覧ください。「OP売坊戦略」で検索！



OP売坊



日経平均は再度トリプルトップに

日経225先物23年12月限





2023年10・11月限SQ日までの注目イベント

<米国>

10月01日：2024会計年度（米国政府閉鎖？）

10月06日：雇用統計（9月分）

10月11日：FOMC議事録

10月11日：生産者物価指数（9月分）

10月12日：消費者物価指数（9月分）

11月01日：FOMC

11月03日：雇用統計（10月分）

<欧州・英国>

10月26日：欧州政策金利

11月02日：英国政策金利

<日本>

09月27日：9月権利付き銘柄最終取引日

09月29日：消費者物価指数（東京9月分）

10月02日：日経平均銘柄入れ替え

10月12日：企業物価指数（9月分）

10月27日：消費者物価指数（東京10月分）

10月31日：政策金利

11月06日：先物・OP証拠金計算方法変更

※第二金曜日（原則）は日経225OP期近限月の未決済建玉が清算されるSQ日のため、OPトレーダーにとって区切りとなる日です

2023年 9月

9月18日に祝日取引が実施されました

					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

2023年 10月

10月9日に祝日取引が実施されます

				5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2023年 11月

11月3日は祝日取引が実施されません

				1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11	

9月20日のFOMCを受けて翌21日に10年物米国債利回りは一時4.505%を付けました。これが常態化する可能性もありそうです



■	日経225ミニオプションのSQ日
■	日経225ミニ先物・マイクロ先物、月次オプション、ミニオプションのSQ日
■	日経225先物・ミニ先物・マイクロ先物、月次オプション、ミニオプションのSQ日

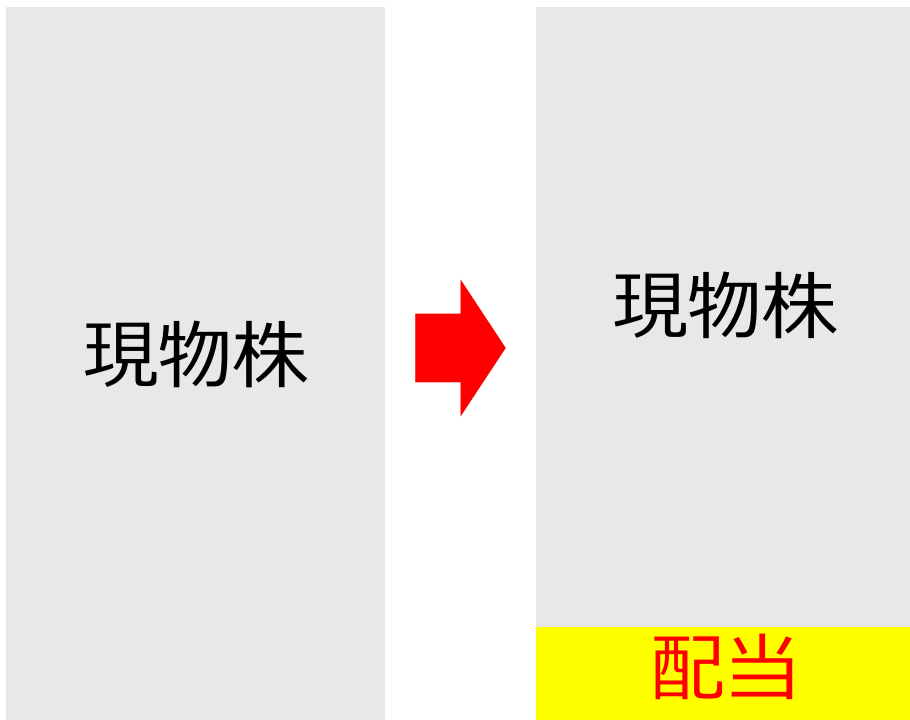
注) 予定は予告なく変更される場合があります。
出所) ブルームバーグ、ロイターなどより筆者作成

※『OP売坊公式ツイッター (@OP49431790)』でもニュースについてつぶやいています。



9月27日（権利付最終売買日）の直後に先物の買い需要も

権利落ち



日系大手3社の日経平均連動型ETFの純資産額が17兆円とすると……

ミニ先物から推測した配当（分配金）214円は日経平均が32500円とすると0.66%なので17兆円の0.66%は約1122億円

日経225ラージ先物1枚当たりの取引金額が3250万円とすると約3450枚

225先物ラージの1日出来高は3～7万枚程度したがって、市場へのインパクトが大きい

☆裁定買いからの現物の相対取引などで対処

権利落ちをするとETF・投信は現物+現金（配当の予定入金）のポートフォリオとなります。現金部分を持ったままだと指数との連動性が下がりますので、先物などを使って現金相当分を買いヘッジすることになります



裁定業者との相対の場合、裁定買いの業者は現物部分がなくなりますので、先物の売りポジションを手仕舞うなどしてヘッジをする必要があります。こうして先物の変動リスクを回避するわけです



10月2日の日経平均の銘柄入れ替えに約4000億円の売り需要

日経平均連動投信などから残り222銘柄に4000億円程度の売り（大和証券試算）が出るか？

新規採用

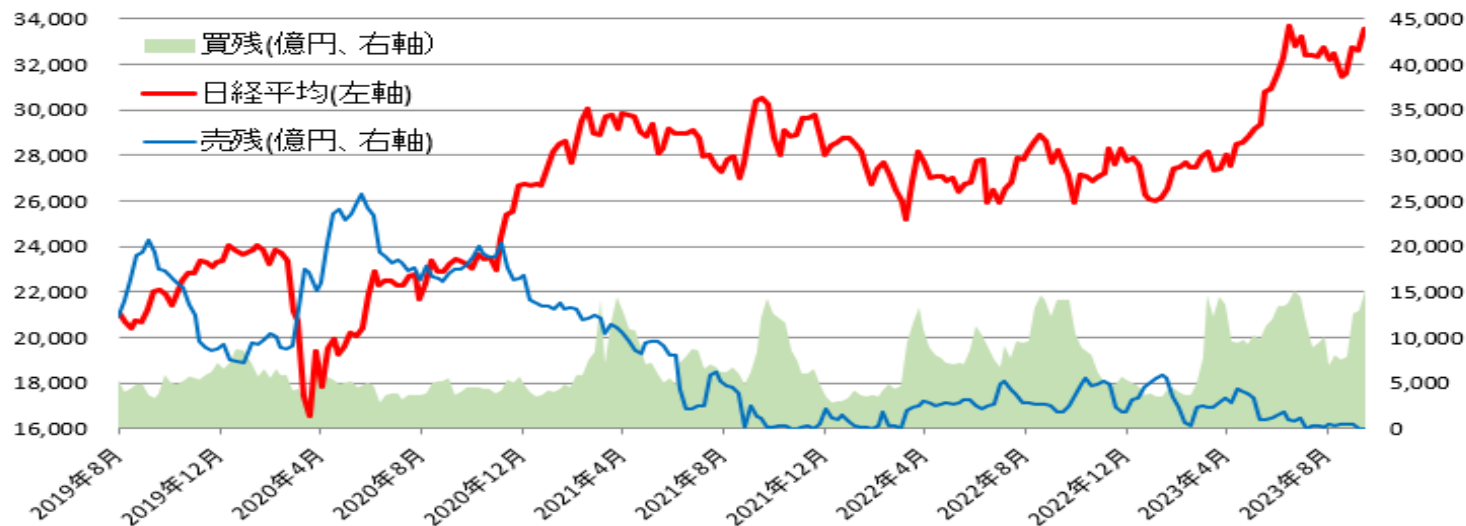
- ☆4385 メルカリ（3180円）
- ☆6920 レーザーテック（22315円）
- ☆9843 ニトリHD（16900円）

除外

- ★5202 日本板硝子（815円）
- ★7003 三井E&S（602円）
- ★8628 松井証券（854円）

参考) 日経平均プロフィール『日経平均株価 構成銘柄選択基準』、カッコ内は9月22日引値
https://indexes.nikkei.co.jp/nkave/archives/news/20230712J_3.pdf

裁定買い残高（1兆5087億円：9月15日）は高止まり



銘柄入れ替えで指数連動ETFのほか、高い水準にある裁定買い（先物売り—現物買い）のポジションが減るかもかもしれません



出所) JPX、ブルームバーグより筆者作成



PER16倍は買われ過ぎ領域か？

日経平均と予想EPS（1株当たり利益≒業績）×PER（株価収益率≒成長性）バンド



PERが16倍を超えたことは、円安による業績上昇期待が高まっていることを反映していると考えます。しかし、円安と高インフレによる企業コストの上昇でEPSは低下傾向です



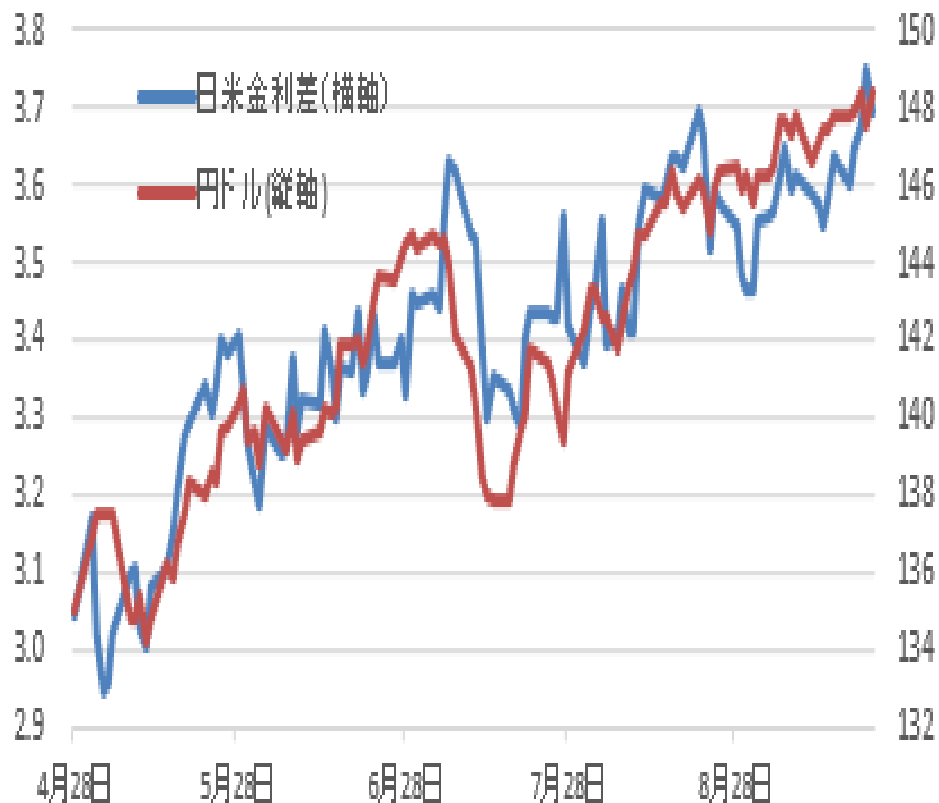
予想EPS×PERマトリクス（EPS×PER=株価）

2,058.60	入力欄(下限)	予想PER →														
入力欄(下限)	EPS	11.0	11.5	12.0	12.5	13.0	13.5	14.0	14.5	15.0	15.5	16.0	16.5	17.0	17.5	
-2.8%	2000	22,000	23,000	24,000	25,000	26,000	27,000	28,000	29,000	30,000	31,000	32,000	33,000	34,000	35,000	
-1.6%	2025	22,275	23,288	24,300	25,313	26,325	27,338	28,350	29,363	30,375	31,388	32,400	33,413	34,425	35,438	
-0.4%	2050	22,550	23,575	24,600	25,625	26,650	27,675	28,700	29,725	30,750	31,775	32,800	33,825	34,850	35,875	
0.8%	2075	22,825	23,863	24,900	25,938	26,975	28,013	29,050	30,088	31,125	32,163	33,200	34,238	35,275	36,313	
2.0%	2100	23,100	24,150	25,200	26,250	27,300	28,350	29,400	30,450	31,500	32,550	33,600	34,650	35,700	36,750	
3.2%	2125	23,375	24,438	25,500	26,563	27,625	28,688	29,750	30,813	31,875	32,938	34,000	35,063	36,125	37,188	
4.4%	2150	23,650	24,725	25,800	26,875	27,950	29,025	30,100	31,175	32,250	33,325	34,400	35,475	36,550	37,625	
5.7%	2175	23,925	25,013	26,100	27,188	28,275	29,363	30,450	31,538	32,625	33,713	34,800	35,888	36,975	38,063	
6.9%	2200	24,200	25,300	26,400	27,500	28,600	29,700	30,800	31,900	33,000	34,100	35,200	36,300	37,400	38,500	
8.1%	2225	24,475	25,588	26,700	27,813	28,925	30,038	31,150	32,263	33,375	34,488	35,600	36,713	37,825	38,938	
9.3%	2250	24,750	25,875	27,000	28,125	29,250	30,375	31,500	32,625	33,750	34,875	36,000	37,125	38,250	39,375	
10.5%	2275	25,025	26,163	27,300	28,438	29,575	30,713	31,850	32,988	34,125	35,263	36,400	37,538	38,675	39,813	
11.7%	2300	25,300	26,450	27,600	28,750	29,900	31,050	32,200	33,350	34,500	35,650	36,800	37,950	39,100	40,250	
12.9%	2325	25,575	26,738	27,900	29,063	30,225	31,388	32,550	33,713	34,875	36,038	37,200	38,363	39,525	40,688	
14.2%	2350	25,850	27,025	28,200	29,375	30,550	31,725	32,900	34,075	35,250	36,425	37,600	38,775	39,950	41,125	
15.4%	2375	26,125	27,313	28,500	29,688	30,875	32,063	33,250	34,438	35,625	36,813	38,000	39,188	40,375	41,563	
16.6%	2400	26,400	27,600	28,800	30,000	31,200	32,400	33,600	34,800	36,000	37,200	38,400	39,600	40,800	42,000	

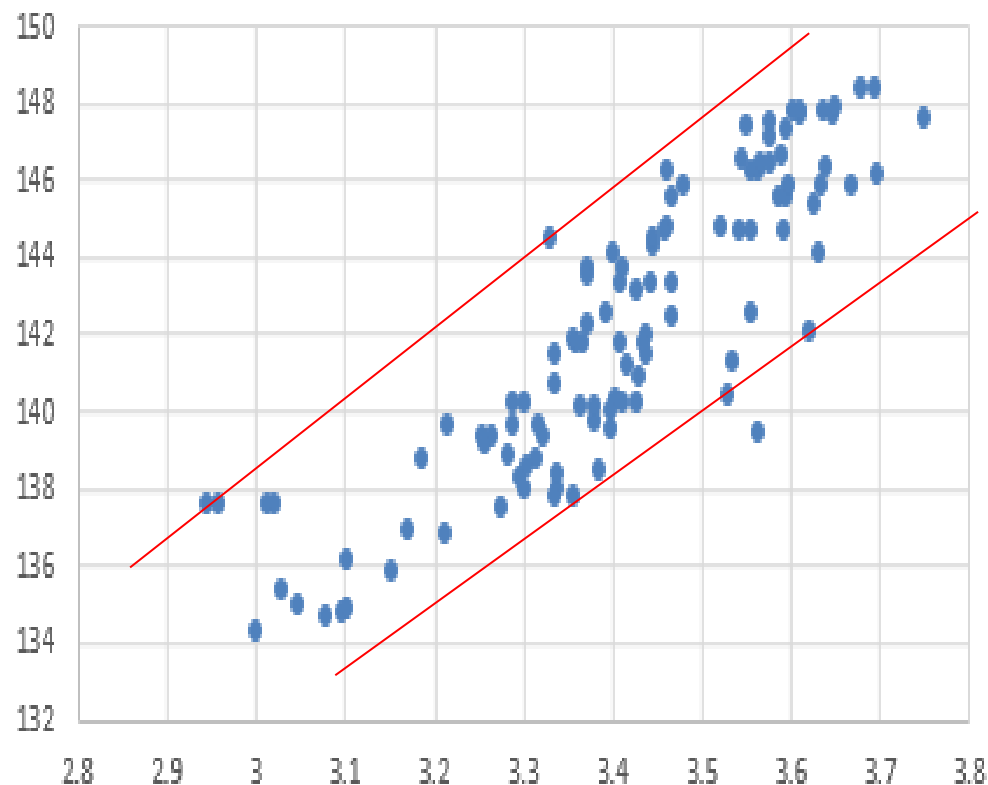


ドル円と日米10年債利回り差の相関が高まる

日米10年債利回り差とドル円レート



日米10年債利回り差とドル円レートの分布図



出所) ブルームバーグより筆者作成 (2023年9月22日現在)

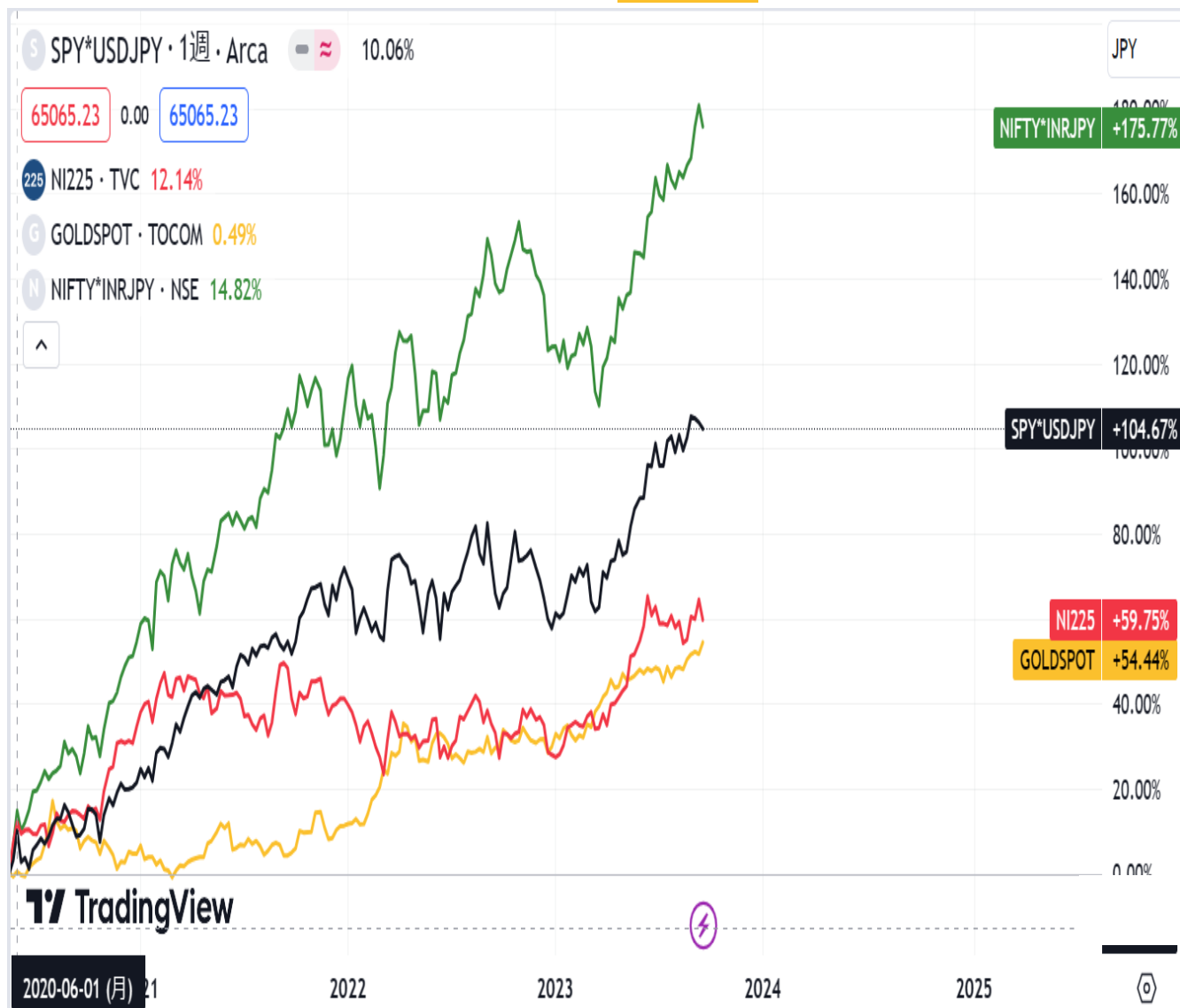
外国為替相場を見るとき理論のひとつに「為替レートは本国通貨と外国通貨の名目金利の差によって決定される」という金利平価説があります。簡単にいえば、高金利国のほうが、お得だということで、その通貨が買われるということになります





日本株、見方によっては一人負け

円建てS&P500、円建てインドNIFTY、円建て金と日経平均



平均年齢 (2020年)

インド	28.43歳
世界平均	30.55歳
ASEAN平均	31.18歳
米国	38.31歳
日本	48.36歳

出所) 国連

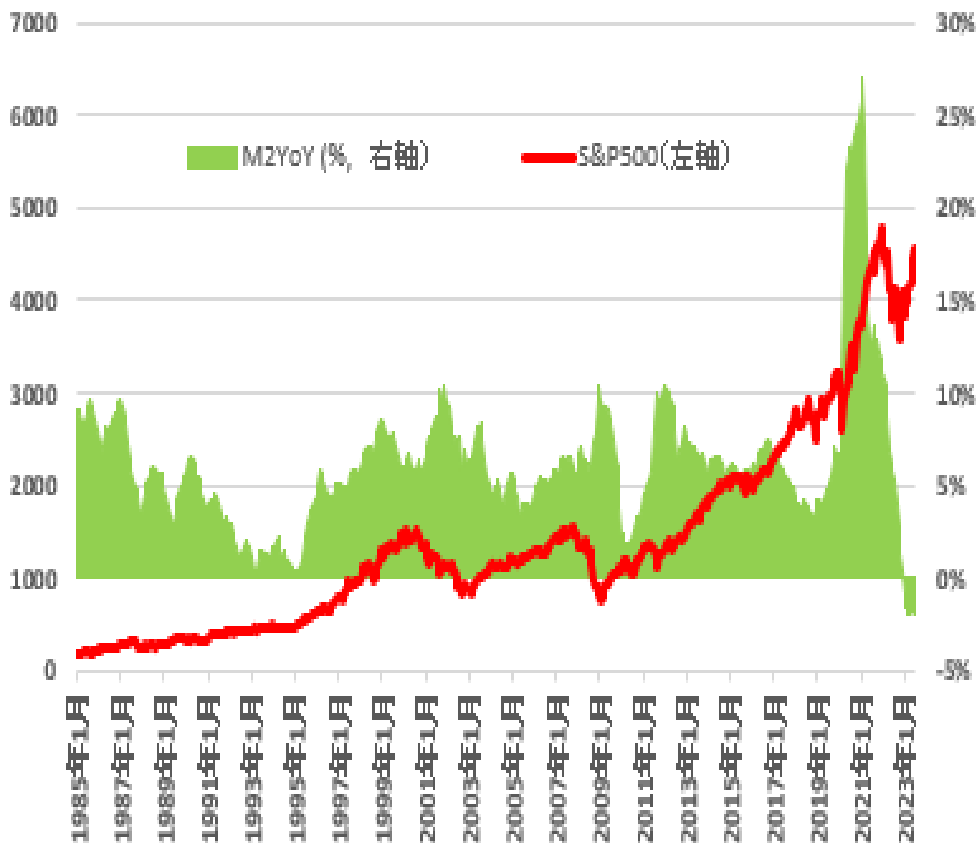
円安で日経平均は上昇していますが、海外株との比較では、一人負けの様相です。世界経済の成長に限界が来ている段階では、長期分散投資よりもロング=ショート戦略のほうが有効でしょう





米国の過剰流動性の引き締めは株式市場に波及する

米国の通貨供給量（M2前年比）とS&P500

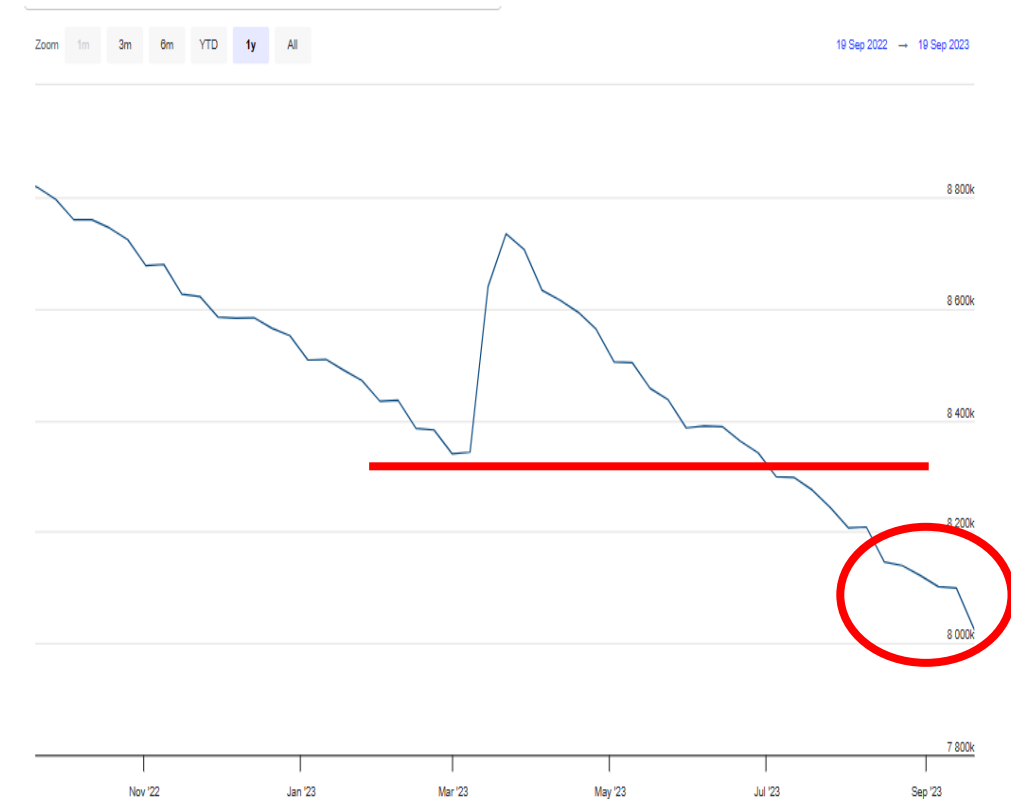


出所) FRB (2023年7月末)

通貨供給量の状況は日々追っておく必要があります。大きな政策転換などがあるかもしれません



FRB（米連邦準備理事会）のバランスシート推移



出所) FRB (2023年9月19日現在)

米財務省やジニーメイ（連邦政府抵当金庫）は、新規に発行される国債やMBS（住宅ローン担保証券）を基本、市場で消化せざるを得ません。その結果、需要が低ければ、利回りが上がるわけですね



10月12日発表の9月分CPIは高止まりの気配

米クリーブランド連銀の9月分CPI（消費者物価指数）前年同月比予想

INFLATION, YEAR-OVER-YEAR PERCENT CHANGE

WTI原油は
90.35ドル

Month	CPI	Core CPI	PCE	Core PCE	Updated
September 2023	3.69	4.17	3.53	3.80	09/22
August 2023			3.53	3.95	09/22

米国の8月分CPI前年同月比は**3.7%**と急反発となりました。今後もCPIが高止まりとなれば政策金利の引き下げにはつながらないかもしれません

出所) クリーブランド連銀 (2023年9月22日現在)

FEDウォッチ (2024年3月20日FOMCの米政策金利予想)

TARGET RATE (BPS)	PROBABILITY(%)			
	NOW [*]	1 DAY 21 9 2023	1 WEEK 15 9 2023	1 MONTH 22 8 2023
450-475	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
475-500	0.0%	0.0%	0.8%	5.5%
500-525	12.5%	9.7%	15.9%	26.7%
525-550 (Current)	52.4%	51.0%	53.3%	43.4%
550-575	29.9%	33.1%	26.4%	21.7%
575-600	5.1%	6.1%	3.5%	2.5%
600-625	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%

* Data as of 22 9 2023 06:12:48 CT

2025/01/01 and forward are projected meeting dates



2024年3月になっても、政策金利の引き上げか引き下げかは五分五分とみられています。引き下げはまだまだ先のようです

出所) CME (2023年9月22日現在)



YouTubeで『オプション倶楽部TV』を配信中！

水曜22時からパンローリングチャンネルで！！



3つの視点で日本株・米国株・為替などの市場を大きく揺るがしそうな材料を分析します



第一週
政治経済イベント分析



第四週※
異常値分析



第二週
グレイ・リノ分析

第五週はトレード・投資に役立つ
OPワンポイント解説



※祝日や暦などによってラジオ出演と異常値分析が入れ替わる場合があります。

第三週※はラジオNIKKEI月曜16時～

『キラメキの発想』に出演！

<https://www.radionikkei.jp/kirameki/>



ラジオ放送も情報提供の一環と位置づけており、ラジオ出演週の配信は、お休みさせていただきます。次回配信は10月4日（水）22時の予定です

専用ページ <https://www.panrolling.com/tv/opctv.html>



OP売坊の無料メルマガ『**グレイ・リノ通信**』

売坊先生のYouTube動画を何倍も楽しめる

補足記事やOPトレードに関する情報を配信中！

詳細・登録は www.OptionClub.net から



- ・日銀金融政策決定会合はOP**買い**戦略のチャンス!?
- ・最近の裁定売り残・買い残の推移から、どのようなことがみえてくるのでしょうか？
- ・中国が着々と米国債を売って金を買っている!?
- ・米国株の「不都合な真実」とは何でしょうか？
- ・OP**買い**戦略で確認・対処すべきポイントとは？
- ……など

読者には入門セミナーと本コースの受付を**先行・優先でご案内**いたします

オプション倶楽部

検索

最後までご清聴、誠にありがとうございました。

講師ブログ 『実践オプシオン教室』

<https://www.jissennkop.blog.fc2.com>

講師ツイッター 『OP売坊@OP49431790』

<https://twitter.com/OP49431790>

Copyright © 2019-2023 OP売坊 / Pan Rolling Inc.

All rights reserved. This report is for authorized recipients only and not for public distribution.

免責事項

- オプション倶楽部TV（以下「本動画」）で使用した図表・数値などは、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、その正確性・信頼性・完全性を保証するものではありません。
- 本動画に掲載された情報・図表・資料は、あくまで金融知識の向上と情報提供を目的としたものです。証券など金融商品の売り買いを提案・勧誘するためのものとして、また証券など金融商品について助言・推奨するものとして、利用・解釈しないでください。
- 本動画は一般向けに編集されています。特定の投資目的・特定の投資環境・特定の投資家を一切考慮していません。事前に専門家の適切な助言を受けるべきですし、最終的な投資判断は、個々人が個々の状況を考慮して、自らの責任で下すようにしてください。
- 本動画に基づく行為の結果、発生した障害・損失などについて講師およびパンローリング社は一切の責任を負いません。
- 本動画に記載されたURLなどは予告なく変更される場合があります。
- 本動画に記載されている会社名・製品名は、それぞれ各社の商標および登録商標です。